



日本大学
三島

同窓会々報

第 25 号

平成 6 年 11 月 3 日
静岡県三島市文教町 2
日本大学三島同窓会発行

平成 六 年 度

常任幹事会・幹事会開催

◎常任幹事会

平成六年七月八日(金)十七時から、母校八号館二階において開催され、幹事会の運営、議事の内容について審議された。

◎幹事会

常任幹事会に引き続き、七月八日(金)十八時から幹事会が開催された。

会は常任幹事(庶務担当)の久保田勝氏の司会により進行され、渡辺勝一新会長の挨拶の後、議長団、書記が選出された。議長には小出博氏、副議長に山口良児氏、書記には広岡達郎氏がそれぞれ選出され、次の事項が報告、審議され承認された。

議事

- 一、平成五年度事業報告
- 一、平成五年度決算報告
- 一、監査報告
- 一、平成六年度事業計画
- 一、平成六年度予算
- 一、各科活動状況報告
- 一、その他

なお、事業報告、事業計画については、佐野勝己事務局長、予算、決算は、宮川守會計担当常任幹事より説明があり、監査報告は持田光雄監査よりそれぞれ行われた。(詳細は六頁参照)

各科活動状況報告については、五期の見上勇逸氏より、報告があり、五期の会、珊瑚会が六年ぶりに開催、また経済学部出身の会、

三〇会も活動されているとの報告、また予科一期山内茂氏より、予科一期の寮生の会合を五月二十三日に開催した旨の報告があった。

その他、西村美枝子顧問より、学園歌集の主旨説明を前文に記載すべきとの提案があり、それに対し、事務局より主旨説明は編集後記に記載されているが、前文に移し、内容についても再編集したいとの回答があった。また、渡辺勝一会長より、三島同窓会規約第十五条、第二十二条に基づき、宮沢前会長を顧問に推薦したいとの提案があり、次に佐野勝己事務局長より、現会計監査の持田光雄、中島敏男両氏の辞意に伴い、後任に土屋忠得、山崎光義両氏を推薦したいとの提案と、また学内幹事等の交替、任命を一任していただけるかとの提案がされ、いずれも承認された。

最後に宮沢主計前会長より退任、顧問就任の挨拶がされた。箱根駅伝で活躍する母校選手の応援を同窓会として行っているが、毎年参加者が増えているので、費用の補助を雑費の中へ組み入れて欲しい旨の要望があり、幹事会は閉会された。

幹事会に引き続き、懇親会が同会場にて盛大に行われ、十一月三日(木)四時の総会に結集するとのお互いの意志をかため散会した。



ご挨拶

国際関係学部部長 秋山 正幸

秋冷の候、三島同窓会の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。天高く、秋色いよいよ濃く、「茶の花のわづかに黄なる夕かな」という蕪村の句が思い出されるこのごろです。前国際関係学部長村田博司教授の後を引き継いで、十月一日から学部長に就任することになりました。私は三島同窓会、教養一期の同窓会員であります。三島同窓会の皆様と力を合わせて三島キャンパスの発展に鋭意努力するつもりでおりますので、何とぞご支援賜りますようお願い申し上げます。

のためには教職員一人一人が十分な参加意識をもって、以下に掲げる諸施策を実行することが必要であります。

一、学部の再編成

平成十一年度に学部および短期大学部文学科・商経学科の臨時定員増の許可期限が終了することを考慮して、経営基盤の安定を計るために、平成八年度までに学部再編の諸計画をたてて、遅くとも平成十一年度までに実施したいと考えています。

二、三島キャンパス五十周年記念行事の舉行

さて、現在、国際関係学部および短期大学部は、大学設置基準の改正に伴って、教育の自由化を図りながら、いかに学部・学科の特色を打ち出すべきか、平成五年度に始まった十八歳人口の激減期に對していかなる対策を立てるべきか、等々の難問題に取り組まなければならぬ重大な時期に直面しています。このような困難な時期に大学として生き残り、なお一層の発展を遂げるためには、現在の国際化、高度情報化の時代にふさわしく、大学の施設の充実を図ると共に、大学本来の任務である研究と教育の中身を高めることに主力をおかなければなりません。そ

課程の設置

現在の大学院国際関係研究科修士課程をより一層充実させて、質の高い国際関係学の専門家を育成

することを旨とする博士課程を設置したいと考えています。国際的な日本の地位が向上すると世界各国から日本に留学生がやってきます。その多くは大学院で研究します。それ故に、大学院が充実しなければ、日本は国際的にも十分な役割を果たすことができないことになります。



同窓会長就任に際して

三島同窓会長 渡邊 勝一

この度宮澤主計第五代会長のあとをうけて平成六年四月から二年間、第六代会長をお受けした。すでに定年を過ぎ第二の人生を歩んでいる私がどれほど母校発展のため寄与できるのか、少々気になるが、お受けした以上同窓各位の絶大なご支援を得て、よりよい成果をあげたいと願っている。

思えば私にとって、日大三島学園での二年間は人生の大きな転期となりかつ試練の場であったと常々思い起こし感謝している。その一端をまず紹介し会長就任に際してのご挨拶に代えたいと思う。

私が戦後の混乱の中でもう少し勉強してみたいと思ひ日大の門をくぐったのは、昭和二十六年四月

外国語教育センターを充実させて、国際化時代にふさわしい実践的語学教育をしていかなければなりません。これから取り組まなければならない問題は山積しております。一步一步、着実に実行してゆく所存です。

同窓会の皆様には以上のような諸施策にご理解を示され、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

三日の「日大三島教養部第二次募集入学試験」でした。試験結果はみじめだったと思っているが、面接担当の先生から「入学したらしっかりやってくれ給え」のお言葉を頂き、五日後の入学式に滑り込んだのが私の人生転期第一号だったと思っている。

順調組より四年遅れの入学であり、しかもアルバイトをしながらの苦学生であったので、役員をやることなど全く考えてもいなかったが、一年次が終る頃先輩から「君は年もとりつており、まとめ役にふさわしいから」ということで往時の学生三団体（学友会、自治委員会、連合県人会）の中の学友会代議員会議長（通常代議員長）をや

るよう打診があった。しかしアルバイトのこともあり私はその任にもないので固辞し、その後春休みもすぎたのですでに誰かに決定したものだと思っていた。

ところが明日が入学式という四月七日の昼前、富士宮の自宅にウナ電（至急電報）で「直ちに大学に出頭せよ」との呼び出しを受け大急ぎで三島校舎に出頭すると、そこにはなんと秋葉教養部長先生をはじめ玉津、斎藤、沼尻、浅野の諸先生や三期の学友会代議員長だった峰さんや尾朝さん、宮澤さん等の先輩、そして同期の曾根田（後の遠藤）、安田、村野、辻君等々総数二十人以上の錚々たるメンバーが本部会議室で私の到着を待ちうけていたのである。「どうしても学友会代議員長を君にうけて貰いたい」「アルバイトに支障ないよう夜までの仕事はさせない」「もしもの時は俺達が代理する」等々、皆から延々と熱心な説得が続いた。これだけのメンバーが集っているのは相当協議した結果であり、私に白羽の矢を立ててもらったのは誠に光栄だが、困ったものだ」と思案した末、秋葉先生に「お受けして頑張ってみます」と答え、玉津先生より「早速だが明朝の入学式で、新入生歓迎の辞」をやってもらうから、これから挨拶文を考えてきなさい」と云われて解放されたのは夕刻近くになっていた。やむなくアルバイト先の富士宮東高の定時制に行き、事情を話し

引続く代議員長の経験も誠に苦
楽両面をもつ体験であり、やがて
就職先の私大において学生課長と
して大学紛争時の七年間を勤め上
げ、その後の経営担当時代も常に
情熱をもって対応できたことは、
このときの試練や先生方の人間性
豊かなご指導が、まさに生かされ
たものと思っている。

ところで我が三島^{三島}は、昭和二十一年六月に日大三島予科として開設されて以来、本年は四十八年を経過した。近いうちに大学から開設五十周年記念事業の内訳が発表されると思うが、当然わが同窓会もその方針に沿って全面的に協力し、一人でも多くの同窓があまり負担に感ずることなく、母校発展に貢献しているのだ、という小さななかしとなるような協力方策を至急考慮したいと思っている。とかく私学は、子弟の入学は認めないで寄付だけ集める、との批判がある。私は、子弟の入学は実力で、寄付は応分に、と考えている。いずれ事業が確定すればご案内するので、是非応分のご協力をお願いする次第である。

国際関係学部同窓会

平成六年度同窓会は、来る十一月五日(土)三島駅前の田代パレスにて開催いたします。

十五時から総会、十五時三十分から恩師等を招き懇親会を行います。卒業生が、多数参加されますよう、期待いたします。なお、平成五年度の総会は昨年十月三十日に執り行われ卒業生、恩師等五十余名の方々が参加され盛大に開催されました。

去る二月五日、短期大学部文学科の同窓会（桜文会）が、三島ブラザホテルで開催されました。第二十五回を迎えた本会では、卒業を三月に控える四百十余名の新期入会者、多数の同窓会諸姉、そして、谷口次長をはじめ、多くの先生方のご列席をいただき、盛大な総会を開催させることができました。

山田会長や三島市長より丁寧なご挨拶をいただいたり、恩師の先生方との和やかなひとときなど、有意義な時間を過ごしました。

桜文会を通じて、これからも会員の方々が交流を深め、新たな発展につながるよう心から祈つてやみません。



平成六年度の商経科同窓会総会が平成六年十月二十一日(金)三島市内の田代パレスにおいて、六十余

名の参加に、盛大に開催されました。総会に先だち、日本大学短期大学部教授であります今野守先生による「健康づくりのためのライフスタイル」と題して講演をしていただきました。その後総会を行い、事業報告、収支報告等の説明があり、役員改選においては、岩崎一雄会長が全員拍手をもって三選されました。

總會に引き続き懇親会が開催され、岩崎一雄会長の挨拶の後、学校側より北川道男、関忠文両先生よりご祝辞をいただき、乾杯の音頭は中荃幸治相談役より和やかに進められ、お互いに懐かしく語り合い、近況を報告する方々などの姿がみられ、会が大いに盛り上がったところで、次会に結集するとの意思をお互いにかため閉会されました。



恒例の桜栄会総会も三十四回を数え、新人会員歓迎を兼ね、六月五日「田代パレス」にて開催されました。総会は、平井会長の挨拶で始まり、年間報告、会計報告と進められました。そして、四期・十四期・二十四期卒業生の進行により、岩田せき先生を迎えての講演の後、懇親会が行われました。渡辺三島同窓会長、恩師の先生方を含む、九十一名の出席により盛大な会となりました。最後に全員で来年の再会を約束して会を閉じました。

また、毎年発行している会報「桜
栄」も、来期より当番期の幹事を
中心に作成されることとなり、趣
向をこらした文章を皆様にお届け
できそうです。



幹事	鈴木 稔	(27・28)	幹事	両角 勇	(42)	幹事	長倉 良幸	(44・45)
幹事	上野 実	(27・28)	幹事	濱田 義之	(45)	幹事	前山 良光	(45・46)
幹事	関本 文彦	(27・28)	幹事	高藤 省三	(49)	幹事	早川 清文	(45・46)
幹事	真部 喜孝	(27・28)	幹事	河田 敏明	(50)	幹事	菅野 利幸	(45・46)
幹事	結城 勇一	(27・28)	幹事	滝本 博	(53)	幹事	三枝 和彦	(46・47)
幹事	土屋 仁	(27・28)				幹事	天野 寿一	(48・49)
幹事	丸山富美男	(28)				幹事	埜村 光伸	(53・54)
幹事	坂詰 正衛	(28・29)	幹事	岩崎 尚枝 (伊藤)	(41・42)			
幹事	望月 知林	(28・29)	幹事	小永井京子	(43・44)	幹事	岩月 和男	(40・41)
幹事	安東 安生	(29・30)	幹事	平岩美知子 (金子)	(44・45)	幹事	中山 義昭	(41・42)
幹事	田嶋 文義	(29・30)	幹事	高橋真理子 (大場)	(44・45)	幹事	渡辺 清	(42・43)
幹事	寺崎 哲郎	(29・30)	幹事	石井千枝子	(46・47)	幹事	赤池 哲也	(42・43)
幹事	関 哲男	(29・30)	幹事	勝亦 幾代 (古川)	(56・57)	幹事	深井 富雄	(45・46)
幹事	林田 達郎 (中村)	(29・30)	幹事	佐野 裕子	(58・59)	幹事	河田 哲雄	(46・47)
幹事	森 伸夫	(30・31)	幹事	辻井 哉子	(60・61)	幹事	西家 勝彦	(51・52)
幹事	道見 俊廣	(30・31)	幹事	沓間 恭子	(60・61)	幹事	勝呂 千明	(52・53)
幹事	小野 武	(30・31)	幹事	鈴木三奈子	(62・63)			
幹事	杉山 茂	(30・31)	幹事	宇佐見京子	(元・2)	幹事	加藤 春俊	(30・31)
幹事	根岸 元宏	(31・32)				幹事	加藤 博昭	(48・49)
幹事	加藤 三洲	(31・32)	幹事	荒木とよ子 (飯村)	(39・40)	幹事	津田 正克	(50・51)
幹事	渡部 浩司	(31・32)	幹事	萩野谷 肇	(41・42)	幹事	後藤 善夫	(52・53)
幹事	大村日出雄	(32)	幹事	上田 定義	(41・42)	幹事	吉村しげみ	(元・2)
幹事	甲田 知由	(33)	幹事	加藤 久貴	(46・47)	幹事	鈴木知恵美	(2・3)
幹事	杉本 直志	(33)	幹事	秋山 稔明	(46・47)	幹事	藤澤 博隆	(3・4)
幹事	市橋 悟	(34)	幹事	前田 正丈	(47・48)			
幹事	朴沢 英憲	(34・35)	幹事	藤本 哲生	(47・48)	幹事	遠藤日出夫	(37)
幹事	吉野 洋一	(35)	幹事	野田 栄	(47・48)	幹事	渡辺 博夫	(37)
幹事	横田 晋朗	(35)	幹事	棚橋 敏彦	(50・51)	幹事	江川 洋	(42)
幹事	鈴木 肇	(35)	幹事	小松真由美	(51・52)	幹事	藤幡 俊量	(46)
幹事	御供 政紀	(35・36)	幹事	矢崎 真治	(53・54)			
幹事	小沢 文郎	(36)				幹事	松原 裕二	(54～57)
幹事	大西 良雄	(37)	幹事	渡辺 桂子	(60・61)	幹事	井上 晶子 (賛川)	(54～57)
幹事	小川 武司	(37)	幹事	林 尚美	(62・63)	幹事	大木めぐみ	(2～6)
幹事	多田清太郎	(37)	幹事	野室香世子	(2・3)	幹事	阪 朋子	(2～6)
幹事	坂口 正剛	(37)	幹事	龜山 桂	(3・4)	幹事	小川 菊子	(2～6)
幹事	小石川宣照	(37)	幹事	宮下 正俊	(39・40)			
幹事	谷崎 邦昭	(38)	幹事	瀬村 隆治	(42・43)			
幹事	栗山 康雄	(39)	幹事	吉田 力	(44・45)			

任期 (H6. 4. 1～H8. 3. 31)

平成6年度役員

顧問	西村 満男	(21~23)	常任幹事	榎本 睦美	(45・46)	幹事	宝地 克哉	(23~25)
顧問	西村美枝子 (長谷川)	(22~24)	常任幹事	西野 和衛 (望月)	(46・47)	幹事	播本 弘	(23~25)
顧問	中嶋 信行	(23~25)	常任幹事	江本 博勝	(46・47)	幹事	長谷川駿一	(23~25)
顧問	奥田 吉郎	(23~25)	常任幹事	沼上 博美 (伊出)	(48・49)	幹事	徳増 清二	(23~25)
顧問	宮沢 主計	(25・26)	常任幹事	関野 幹雄	(48・49)	幹事	石野 進	(23~25)
顧問	見上 勇逸	(27・28)	常任幹事	大島 裕二	(52・53)	幹事	石垣 恭弘	(23~25)
			常任幹事	斎藤 聡	(54~57)	幹事	井上 忠彦	(23~25)
会長	渡辺 勝一	(26・27)	常任幹事	小澤里佳子	(57・58)	幹事	細田 昭次	(23~25)
副会長	鈴木 邦良	(27・28)	常任幹事	野田 正人	(62・63)	幹事	杉山 吉房	(23~25)
副会長	小椋 貞夫	(28・29)	常任幹事	久保 和之	(63・元)	幹事	深沢 昭八	(23~25)
副会長	平井 千枝	(34・35)	常任幹事	広岡 達郎	(元~4)	幹事	服部 房夫	(23~25)
副会長	高田 菊平	(36)	会計監査	山崎 光義	(44・45)	幹事	芹澤 克治	(24~25)
副会長	山田 浩子	(41・42)	会計監査	土屋 忠得	(40・41)	幹事	石川 進	(25・26)
副会長	岩崎 一雄	(43・44)				幹事	矢沢 知秋	(25・26)
副会長	宮下 公雄	(54~57)				幹事	長倉 祐作	(25・26)
事務局長	佐野 勝己	(39・40)	幹事	高田日出太郎	(21)	幹事	宮崎 茂樹	(25・26)
常任幹事 (庶務担当)	久保田 勝	(38・39)	幹事	馬場 康夫	(21・22)	幹事	伊藤 悟	(25・26)
常任幹事 (庶務担当)	田中 由雄	(42・43)	幹事	清 好一	(21~23)	幹事	辻 省二	(26・27)
常任幹事 (会計担当)	宮川 守	(47・48)	幹事	石垣 義親	(21~23)	幹事	田村 実	(26・27)
常任幹事	木村 幸夫	(23~25)	幹事	小野 真一	(21~23)	幹事	浅原 好胤	(26・27)
常任幹事	白鳥 義仁	(25・26)	幹事	米内 国夫	(21~23)	幹事	宮崎 乾朗	(26・27)
常任幹事	大井 徹也	(26・27)	幹事	澤 直和	(21~23)	幹事	高橋 英明	(26・27)
常任幹事	鈴木 義樹	(28・29)	幹事	滝川 昇	(22・23)	幹事	荒川 通	(26・27)
常任幹事	角田 義廣	(30・31)	幹事	中浜 卓弥	(22~24)	幹事	岩永 勉	(26・27)
常任幹事	市川 紀子	(37・38)	幹事	中塩 利雄	(22~24)	幹事	塩田 浩	(26・27)
常任幹事	小出 博	(40・41)	幹事	北條 晃	(22~24)	幹事	村野 静司	(26・27)
常任幹事	柴田 正	(41・42)	幹事	長田 涉	(22~24)	幹事	光信 儔	(26・27)
常任幹事	土屋 貞明	(42・43)	幹事	山内 茂	(22~24)	幹事	稲葉 昭	(26・27)
常任幹事	小早川隆義	(42・43)	幹事	川口 正信	(22~24)	幹事	吉田 昭二	(26・27)
常任幹事	染谷 徳昭	(42・43)	幹事	小林 昭雄	(22~24)	幹事	熊崎 文二	(26・27)
常任幹事	渡辺 忠昭	(42・43)	幹事	金田 豊	(23~25)	幹事	輿水 啓一	(26・27)
常任幹事	林田 孝二	(43)	幹事	松本 秀雄	(23~25)	幹事	廣田 均	(26・27)
常任幹事	山口 良児	(43・44)	幹事	小林 栄三	(23~25)	幹事	栗原 恒夫	(26・27)
常任幹事	相田 信次	(44・45)	幹事	勝俣 敏充	(23~25)	幹事	黒滝 祐司	(27・28)
常任幹事	鈴木 正八	(44・45)	幹事	山本 康弘	(23~25)	幹事	小林 義尚	(27・28)
常任幹事	久保田博明	(45・46)	幹事	森下 菊美	(23~25)	幹事	田村 栄一	(27・28)

平成5年度 事業報告

- 1 三島同窓会長賞授与
平成5年度日本大学三島キャンパス在学学生から、次の者が推薦された。同窓会長賞（副賞記念品）は、国際関係学部2名、短期大学部4名に贈られ、平成6年3月25日の卒業式当日（日本武道館）授与式が行なわれた。
同窓会長賞（副賞奨学金）は、国際関係学部4名、短期大学部4名に贈られ、4月9日の開講式当日授与式が行なわれた。
同窓会長賞（副賞記念品） 6名
門脇正明（国際関係学科4年） 南敦子（国際文化学科4年） 秋山陽子（国文専攻2年）
小池恭子（商経学科一部2年） 今川高宏（商経学科二部2年） 望月ゆりか（食物学養専攻2年）
同窓会長賞（副賞奨学金） 8名
三宅大介（国際関係学科3年） 高橋直樹（国際文化学科3年） 鈴木健二（国際関係学科2年）
桃井貴裕（国際文化学科2年） 片倉重希子（国文専攻1年） 白川美保（商経学科一部1年）
町野智彦（商経学科二部1年） 西山志保（生活文化専攻1年）
- 1 学園歌集発行
3,000部を発行し、平成5年4月国際関係学部・短期大学部各学科の新入生全員に対し入学祝いとして渡した。
- 1 会報発行
会報24号、平成5年11月3日付 8頁 3,000部を発行した。
- 1 各科同窓会等補助
国際関係学部同窓会・桜文会及び大学の体育会に補助した。
- 1 常任幹事会
平成5年7月16日(金)17時30分から、国際関係学部8号館2階で開催した。
- 1 幹事会
平成5年7月16日(金)18時から、国際関係学部8号館2階で開催した。
- 1 総会並びに懇親会
平成5年11月3日(水)16時から、国際関係学部記念館で開催した。
- 1 箱根駅伝応援
平成6年1月3日(月)復路スタート地点で応援した。

平成5年度 収支決算書

(平成5年4月1日～平成6年3月31日)

単位：円

支 出 の 部				収 入 の 部			
項 目	予 算 額	決 算 額	差 異	項 目	予 算 額	決 算 額	差 異
奨 学 費	650,000	634,620	15,380	会 費 収 入	4,293,000	4,344,000	△ 51,000
学 園 歌 集 発 行 費	230,000	226,600	3,400	雑 収 入	961,144	970,891	△ 9,747
同 窓 会 報 発 行 費	180,000	149,350	30,650	前 受 金 収 入	2,850,000	2,628,000	222,000
各 科 同 窓 会 等 補 助	320,000	260,000	60,000				
総 会 並 び に 懇 親 会 費	400,000	423,505	△23,505				
会 議 会 合 費	300,000	299,300	700				
通 信 運 搬 費	50,000	16,400	33,600				
事 務 費	100,000	47,560	52,440				
雑 費	200,000	32,000	168,000				
予 備 費	800,000	0	800,000				
計	3,230,000	2,089,335	1,140,665	計	8,104,144	7,942,891	161,253
基 金 繰 入 額	2,080,000	3,200,000	△1,120,000	基 金 繰 出 額	0	0	0
次 年 度 繰 越 金	2,850,000	2,709,412	140,588	前 年 度 繰 越 金	55,856	55,856	0
(前 受 金)	(2,850,000)	(2,628,000)	(222,000)				
(繰 越 金)	(0)	(81,412)	(△ 81,412)				
支 出 の 部 合 計	8,160,000	7,998,747	161,253	収 入 の 部 合 計	8,160,000	7,998,747	161,253

貸 借 対 照 表

(平成6年3月31日現在)

単位：円

借 方		貸 方	
項 目	金 額	項 目	金 額
普 通 預 金	2,709,412	基 金	30,300,000
定 期 預 金	30,300,000	(前 年 度 繰 越 額)	(27,100,000)
		(本 年 度 繰 入 額)	(3,200,000)
		次 年 度 繰 越 金	2,709,412
		(前 受 金)	(2,628,000)
		(繰 越 金)	(81,412)
合 計	33,009,412	合 計	33,009,412

基 金 の 内 訳

単位：円

項 目	前 年 度 繰 越 額	本 年 度 繰 入 額	合 計
同 窓 会 事 業 基 金	23,200,000	2,600,000	25,800,000
国 際 関 係 学 部 基 金	3,900,000	600,000	4,500,000
校 友 会 加 盟 基 金			
計	27,100,000	3,200,000	30,300,000

平成5年度収支について、関係帳簿並びに証拠書類を精査いたしましたが、記帳その他正確であることを認めます。

平成6年7月8日

会計監査 持田 光雄 ㊞
同 中島 敏男 ㊞

平成6年度 事業計画

1 三島同窓会長賞授与（副賞：記念品もしくは奨学金）

日本大学国際関係学部および短期大学部を平成7年3月卒業・4月に進級の予定の者を対象とする。

同窓会長賞並びに奨学金 国際関係学部 各学科3・4年生 各学年1名

短期大学部各学科 各学科2年生 各1名

同窓会長賞並びに記念品 国際関係学部 4年卒業予定者 各学科1名

短期大学部 2年卒業予定者 各学科1名

1 学園歌集発行予定

2,000部を発行し、平成7年4月国際関係学部・短期大学部各学科の新入生全員に対し入学祝いとして渡す。

1 会報発行予定

会報25号（平成6年11月）発行10頁 3,000部

1 各科同窓会等補助

(1) 各科の名簿編集の推進

(2) 大学体育会・文化会に対する補助

1 常任幹事会

平成6年7月8日(金)17時から、国際関係学部8号館2階において開催する。

1 幹事会

平成6年7月8日(金)18時から、国際関係学部8号館2階において開催する。

1 総会並びに懇親会

平成6年11月3日(木)16時から、国際関係学部記念館において開催する。

1 箱根駅伝応援

平成7年1月3日(火)復路スタート地点において応援する。

平成6年度 収支予算書

（平成6年4月1日～平成7年3月31日）

単位：円

支 出 の 部				収 入 の 部			
項 目	本年度予算額	前年度予算額	増・減(△)	項 目	本年度予算額	前年度予算額	増・減(△)
奨 学 費	850,000	650,000	200,000	会 費 収 入	4,134,000	4,293,000	△159,000
学 園 歌 集 発 行 費	160,000	230,000	△ 70,000	雑 収 入	574,588	961,144	△386,556
同 窓 会 報 発 行 費	180,000	180,000	0	前 受 金 収 入	2,700,000	2,850,000	△150,000
各科同窓会等補助	520,000	320,000	200,000				
総会並びに懇親会費	430,000	400,000	30,000				
会 議 会 合 費	300,000	300,000	0				
通 信 運 搬 費	50,000	50,000	0				
事 務 費	100,000	100,000	0				
雑 費	200,000	200,000	0				
予 備 費	700,000	800,000	△100,000				
計	3,490,000	3,230,000	260,000	計	7,408,588	8,104,144	△695,556
基 金 繰 入 額	1,300,000	2,080,000	△780,000	基 金 繰 出 額	0	0	0
次 年 度 繰 越 金	2,700,000	2,850,000	△150,000	前 年 度 繰 越 金	81,412	55,856	25,556
(前 受 金)	(2,700,000)	(2,850,000)	(△150,000)				
(繰 越 金)	(0)	(0)	(0)				
支 出 の 部 合 計	7,490,000	8,160,000	△670,000	収 入 の 部 合 計	7,490,000	8,160,000	△670,000

第一条 本会は日本大学三島同窓会と称する。

第二条 本会は事務所を日本大学三島校舎におく。

第三条 本会は日本大学三島予科、三島教養部、文学部、三島校舎、短期大学部三島、国際関係学部、大学院国際関係研究科の出身者による正会員と幹事会において本会に関係が深く功労のあると認められた特別会員・名誉会員により構成する。

第四条 本会は会員相互の親睦と融和をはかり母校の発展に寄与すると共に母校建学の理念を社会に拡充することを目的とする。

第五条 本会は前条目的達成のために左の事業を行う。

一、会員相互の親睦と融和をはかるための諸事業。

一、母校の発展興隆に関する諸事業への協力参加。

一、その他目的達成のために必要な諸事業。

第六条 本会は目的達成のため左の機関をおく。

一、総会
一、幹事会

一、常任幹事会

一、事務局
一、地方支部

第七条

総会は本会運営上の諸事項についての報告を受けこれを承認する。

第八条

総会は年一回開催するものとし会長がこれを招集する。

第九条

幹事会は総会の代行決議機関とし左の事項を付議し、これ議決する。

求があつた場合は臨時に招集しなければならない。

一、常任幹事会
一、執行機関として本会の実質的運営にあたる。

第十一条 常任幹事会は本会の執行機関として本会の実質的運営にあたる。

第十二条 常任幹事会は必要に応じて随時会長がこれを招集する。

常任幹事三分の一以上の要求があつた場合はこれを招集しなければならない。

日本大学 三島同窓会規約

一、予算、決算に関する事項

一、事業計画に関する事項

一、会則の改廃に関する事項

一、その他第五条にもとづいて必要と認められた事項

第十条

幹事会は年二回以上開催するものとし会長がこれを招集する。幹事会三分の一以上の要求があつた場合は臨時に招集しなければならない。

会長 一名

副会長 若干名

事務局長 一名

常任幹事 若干名

幹事 若干名

会計監査 二名

顧問 若干名

参与 若干名

第十六条 会長は本会を代表し会務を統理する。

第十七条 副会長は会長を補佐し、会長事故ある時はこれに代る。

第十八条 事務局長は事務を統理し、本会運営に必要な一切の事務事項を遂行する。

第十九条 常任幹事は幹事の互選により選出し、常任幹事会を構成本会業務の執行にあたる。

第二十条 幹事は幹事会を構成し、本会運営の諸事項の議決にあたる。

第二十一条 会計監査は本会会計の監査にあたる。

第二十二条 顧問・参与は幹事会の議を経て会長が委嘱し本会運営上の諮問にあたる。

第二十三条 各役員の任期は二年とし、重任をさまたげない。

第二十四条 本会の経費は会費並びに寄付金その他の収入を以てこれに充てる。

第二十五条 会員は終身会費として金参千円を、日本大学三島会計課に納入すること。

第二十六条 本会の会計年度は四月一日に始まり翌年三月三十一日に終る。

第二十七条 本会の目的および事業に貢献したものは幹事会の議を経て、これを賞することが出来る。

第二十八条 会員で会員としての名譽を棄損する行為があつたときは幹事会の議を経て罰することが出来る。

第二十九条 本会の運営に必要な細則は別に定めることができる。

第三十条 本会則は昭和四十一年十一月三日からその効力を発する。

昭和五十二年十一月改正
昭和五十五年十一月改正
昭和五十八年七月改正
昭和六十二年十一月改正
平成元年十一月改正
平成三年十一月改正